



グリップヒーターおよびSUZUKI製車両についての注意

※ 必ずお読みください ※

< アースについて >

SUZUKI製車両には排気量に問わず、ボディアースを取っていない車両が多くあり、グリップヒーターを取り付ける際にマイナス線をボディアースに接続した場合、動作が不安定になったり、電源が入らなかったりする恐れがあります。

この場合、グリップヒーターのマイナス線をバッテリーのマイナス端子に直接接続するか、エンジンアースに接続する必要があります。取り付けの際にはご注意ください。

< バッテリーについて >

125cc以下の車両の発電容量が低い車両への取り付けにはご注意ください。充電不足になってしまい、バッテリートラブルを引き起こすことがあります。また、グリップヒーターを使用中に長時間の暖機運転を行うとバッテリーを消費してしまい、商品が正常に動作しなかったり、バッテリー上がりを起こす可能性があります。

グリップヒーターの取り付けにより、消費電力が多くなります。

走行前や長期保管した車両へのバッテリーをチェックしていただき、メンテナンスを行ってください。

< グリップ温度について >

グリップヒーターは非常に高温になりますので、素手でのご使用はおやめください。

レベル5や4などの高レベルの状態での常時使用は絶対に行わないでください。

バッテリートラブル、やけどの恐れがありますので、高レベルは初期の急速暖め用のみのご使用としてください。

また、レベル1や2などの低いレベルでの使用時でも、長時間の連続使用や使用状況によっては、低温やけどをしてしまう可能性があります。そのため、長時間の連続使用時にはグリップヒーターを30分以上使用しないで一旦スイッチを切るなどをしてください。

また、グローブ装着時でも同様に低温やけどをする恐れがありますので、ご注意ください。